

Flexera™

FlexNet Manager Suite 2018 R2

リリースノート

2018 年 11 月
バージョン 1.07



目次

1. はじめに.....	4
2. 新しい機能.....	6
データベース移行前の重要な事前テスト.....	6
FlexNet Manager Suite に保管されている個人情報を削除できる機能.....	7
AWS EC2 のクラウド サービス プロバイダー データのインポート.....	7
PowerShell アダプターに追加されたプロキシ サポート.....	8
SAP S/4Hana Business Suite の移行.....	8
スペイン語ユーザー インターフェイスのリリース.....	8
インベントリ ビーコン アップロードのステータス.....	9
無制限ライセンス タイプのサポート.....	9
XenApp "Limit Visibility (ビジビリティの制限)" 機能のサポート.....	10
Oracle データベース オプションの追跡管理.....	10
3. 以前のリリースからの変更点.....	12
ファイル エビデンスの制御強化.....	12
コア制限が編集可能となりました.....	12
オンプレミスのコンテンツ ライブラリ更新におけるパフォーマンスの改善および構成設定.....	13
Adobe Acrobat DC アプリケーション認識の改良.....	13
Linux RPM パッケージの署名.....	14
Flexera Analytics が Cognos Analytics 最新版を使用.....	15
Flexera Analytics 調達サポート.....	15
ファイル エビデンス インポート後のデータベース クリーンアップの改良点.....	16
インベントリ スプレッドシートのテンプレート更新.....	16
強化された VMware インベントリ.....	17
Oracle Advanced Analytics オプションの認識改良.....	17
Oracle インスタンス ページの強化.....	17
Oracle データベース インベントリの強化.....	17
移行によるコンプライアンス データベース スキーマの更新.....	18
その他のドキュメント強化内容.....	18
4. 全般情報.....	20
使用許諾契約.....	20
バグ修正.....	20

既知の問題.....	25
ドキュメント.....	25
その他の情報.....	26
5. システム要件	27
クラウド	28
ハードウェア要件	28
ネットワーク要件.....	30
その他の製品との互換性.....	30
前提条件ソフトウェア	34
6. インストールおよびアップグレードについてのアドバイス	40
7. ドキュメント	42
8. その他の情報.....	43

1

はじめに

FlexNet Manager Suite は、16,000 社を超えるソフトウェアメーカー、および 225,000 以上のアプリケーションに対するソフトウェア資産、ハードウェア資産、およびエンタープライズ契約の管理を行います。インストール済みのソフトウェア、アプリケーションの使用率、購入に関する情報をレポートし、またこれらを照合してライセンス ポジションを提供します。

仮想環境および Oracle データベースのインベントリを行い、Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM)、および構成可能なアダプターを使って、その他のインベントリ ツールからインベントリをインポートし、エンタープライズ リソース プランニング (ERP)、人事 (HR)、Active Directory (Ad)、および発注 (PO) システムとシームレスに統合します。1,380,000 以上の製品 SKU 番号 (Stock Keeping Unit) を含むビルトイン ライブラリを使って、購入とインベントリを自動照合し、最新のライセンス モデルもサポートする FlexNet Manager Suite を活用することで、エンタープライズ内のソフトウェア資産運用を把握すると共に、ソフトウェア支出の最適化を図ることができます。

このドキュメントには、次を含む FlexNet Manager Suite についての情報が掲載されています:

- FlexNet Manager Suite
- FlexNet Manager for IBM
- FlexNet Manager for Microsoft
- FlexNet Manager for Oracle
- FlexNet Manager for SAP Applications
- FlexNet Manager for Symantec
- FlexNet Manager for VMware
- Service Life Data Pack

スイートに含まれる次の製品については、個別のリリースノートを参照してください:

- FlexNet Manager for Engineering Applications
- FlexNet Manager for Cloud Infrastructure
- Workflow Manager

アップデート

リリース ノートの最新版は、次のリンクからアクセスできます：

- ・ [英語](#)
- ・ [フランス語](#)
- ・ [ドイツ語](#)
- ・ [日本語](#)
- ・ [スペイン語](#)

2

新しい機能

データベース移行前の重要な事前テスト



ヒント: FlexNet Manager Suite のクラウド実装を使用する場合、このトピックに掲載されている内容は自動的に処理されているので、無視してください。

オンプレミス実装を FlexNet Manager Suite の以前のリリース から 2018 R2 にアップグレードする時、現在 FlexNet データベースに格納されていて基本となるデータベースの制限に違反する任意のデータがある場合、データベースの移行が失敗し、アップグレードが停止状態になることにご注意ください。この厳密さが適用される理由は、以前のアップグレード後に制約に違反してカスタマー データが入力され、その結果、コンプライアンス エラーが発生した為です。次のすべてのデータベースがこの制約確認の対象となり、無効化されている制約も有効化されます:

- ・ コンプライアンス データベース (デフォルト名: FNMSCompliance)
- ・ インベントリ データベース (デフォルト名: FNMSInventory)
- ・ データ ウェアハウス データベース (デフォルト名: FNMSDataWarehouse)

移行中に発生する可能性のあるこのようなエラーを回避するため、先ずこれらの各データベースに対して順番に新しいデータベース スクリプトを実行することが重要です。スクリプトは優先すべき制約を識別して、それぞれに SQL ステートメントを出力します。その SQL ステートメントをコピーしてから、カスタマイズされたステートメントをデータベースに対して実行します。データベースの制約違反が見つかった場合、次のようなアラートが出力されます:

データが dbo.tableName に存在し、外部キー Fk_name を破壊します

データベースにそのような問題はないと仮定して、データベースのアップグレードを続行することができます。ただし、このテストの結果、前述のいずれかのデータベースでこのようなアラートが表示された場合、アップグレードを続行する前にエラーを修正しなくてはなりません。データベース管理者は *FlexNet Manager Suite 2018 R2 Schema Reference* を参照して、制約についての詳細を確認することをお勧めします。ただし一般的なベストプラクティスは、サポート チケットを提出して Flexera の専門家によるデータのクリーンアップ支援を要請することです。

現在のデータベース上で事前確認として実行するのに必要なデータベース スクリプトは次の場所から取得できます:

- ・ Flexera Customer Community ポータルから取得可能な *FlexNet Manager Suite 2014 Rx (or later) to 2018 R2 Upgrade Guide* (およびアップグレード後にオンライン ヘルプのタイトル ページからアクセス可能ですが、アップグレード前にはアクセス不可能です。)
- ・ Flexera Customer Community ポータルからもアクセス可能なナレッジベース記事 000027104「[Database Validation](#)

Before Upgrading to FlexNet Manager Suite 2018 R2」を参照してください。

FlexNet Manager Suite に保管されている個人情報情報を削除できる機能

一般データ保護規則 (GDPR) に基づいた義務を果たせるよう、FlexNet Manager Suite 内に保管されている個人情報情報を削除できる機能が必要です。そのため、コンプライアンス データベース に対して実行すると、指定の FlexNet Manager Suite オペレーターに関連付けられた個人情報情報を削除できる SQL スクリプトが作成されました。このスクリプトは、オンプレミス インストール、マネージド サービス プロバイダー、または Flexera によるホスト型 SaaS インスタンス (Flexera Operations 担当者との協力) で使用できます。

SQL スクリプト、および FlexNet Manager Suite 内に格納されている個人情報情報を削除する方法については、Flexera Customer Community ポータル (ログイン要) のナレッジベース記事 000026756 「Remove Personal Information from Within FlexNet Manager Suite」に掲載されています。GDPR 準拠についての追加情報は、ナレッジベース記事 000026388 「Is Flexera GDPR Compliant?」を参照してください。

AWS EC2 のクラウド サービス プロバイダーデータのインポート

新しい 検出 & インベントリ > [クラウド サービス プロバイダー インベントリ] ページ ([仮想デバイス] グループにありません) には、Amazon Web Services (AWS) EC2 でホストされているデバイスのデータが一致するインベントリ デバイスのレコードへのリンクと共に表示されます。このデータは、AWS EC2 でホストされているデバイスを自動的に識別する新しいインベントリ コネクタを使って収集され、関連するメタデータを FlexNet Manager Suite にインポートします。詳細なインベントリは、たとえば、AWS 内の仮想マシンをインスタンス化するのに使用されるイメージを FlexNet インベントリ エージェントに含めるなど、別の方法でも収集できます。

前提条件

データをインポートするには、FlexNet Manager Suite 管理者が、インベントリ ビーコン 上に接続を作成する必要があります。インベントリ ビーコン には次が必要です:

- FlexNet Beacon バージョン 13.1.x.x (2018 R2) 以降
- PowerShell 3.0 以降
- AWS Tools for Windows PowerShell バージョン 3.3.283.0 以降

AWS EC2 接続に使用されるアカウントでは、AWS コンソール上のポリシーによって設定される、次のアクセス許可が必要です:

- DescribeInstances
- DescribeHosts
- DescribeReservedInstances
- GetUser.

完全な詳細は、オンライン ヘルプ (英語のみ) を参照してください (*Inventory Beacons > Inventory Systems Page*)

Connecting to External Inventory Systems > Managing PowerShell Connections > Managing AWS EC2 Connections)。

PowerShell アダプターに追加されたプロキシサポート

PowerShell アダプターにプロキシ サポートが追加されました。エンタープライズにロックダウン環境 (たとえば、エンタープライズでインターネットへのアクセスを有効化するためにプロキシ サーバーを使用している) がある場合、PowerShell アダプター ダイアログに新しく追加された [Proxy Settings (プロキシの設定)] セクションを使って、インターネットにアクセスするためのプロキシ サーバー接続を構成することができます。現在、Office 365、Salesforce、および AWS 接続が PowerShell アダプターを使用します。

詳細については、オンライン ヘルプ (英語のみ) の [Inventory Beacons > Inventory Systems Page > Connecting to External Inventory Systems > Managing PowerShell Connections] に移動してから該当する接続タイプを選択してください。

SAP S/4Hana Business Suite の移行

より多くの SAP カスタマーが SAP の Classic Business Suite (R/3) からより新しい S/4Hana Business Suite に移行しています。

このニーズに応えるため、SAP システムが [Classic Business Suite] または [S/4Hana] のどちらであるかを定義できる新しい [S/4Hana への移行] セクションが [新しい SAP システムの作成] ページに追加されました。Classic Business Suite システムの移行は、[未定]、[計画済み]、[処理中]、または [完了] として定義できます。これらのフィールドは、SAP システムを編集すると移行の進行状況として更新されます。これによって、ランドスケープの構成を評価し、システムの S/4Hana への移行状況を確認することができます。

任意の余剰ライセンスの概要を提供する [ライセンスの余剰/不足] セクション ([ライセンス使用状況] > [現在の使用状況] ページ) も新しく追加されました。ここには、S/4Hana 移行に対するクレジットとして SAP とネゴシエート可能な任意のライセンス余剰の概要が表示されます。このセクションには、組織で購入済みの Named User および Package ライセンスの現在の消費に基づいて、余剰 (または不足) を計算するフィールドが含まれています。基本的に、ライセンスが余っていると余剰、ライセンスが足りないと不足が計算されます。余剰は、余剰ライセンスの数量と共にその金額が表示され、S/4Hana クレジットとして使用することが可能となります。不足は、余剰と区別しやすいように赤で表示され、組織に対してライセンスが不足していることを通知します。

スペイン語ユーザー インターフェイスのリリース

FlexNet Manager Suite では本リリースより、スペイン語ユーザー インターフェイスが使用可能となりました。表示言語を変更するには、Web インターフェイス のタイトル バーで、オペレーター名の下にあるドロップダウンから [環境設定] を選択します。

インベントリ ビーコン アップロードのステータス

各インベントリ ビーコンから中央アプリケーション サーバーへのファイル アップロードで起こる可能性のある、または既知の問題は、FlexNet Manager SuiteWeb インターフェイス の次の場所に表示される様々な新しいフィールドを使って簡単に識別することができます:

- ・ [システム正常性ダッシュボード] ページにある [ビーコンの状態] ウィジェット (以前のタイトルは、問題のあるビーコン) は、インベントリ ビーコン の既知の問題の概要を表示し、接続の問題、ブロック中のファイルの数、アップロード保留中のデータおよび最も長くファイルをアップロードできないまま経過した時間などのファイル アップロードに関する問題が強調表示されます。
- ・ [ビーコン] ページの新しい [アップロード合計] 列には、現在 インベントリ ビーコン から中央 アプリケーション サーバー へのアップロードを待機中のすべてのファイル サイズ合計 (MB) で表示され、[最も古い保留中のアップロード] 列にはファイルがアップロードされないまま経過した最も長い時間が表示されます。
- ・ 各 インベントリ ビーコン のプロパティの [全般] タブで、[ビーコンの場所] セクションには今回より、インベントリ ビーコン 上にインストールされている [PowerShell バージョン]、および インベントリ ビーコン によってレポートされた [.Net Framework] が表示され、最小要件が満たされているかどうかを確認することができます。この インベントリ ビーコン で実行中の [OS バージョン] も表示され、どの インベントリ ビーコン をアップグレードするかを判断するための情報として役立ちます。
- ・ 同じプロパティに追加された新しい [アップロード ステータス] タブは、この インベントリ ビーコン から中央 アプリケーション サーバー へのファイルのアップロードで発生した任意の問題を識別するのに役立ちます。このタブには [インベントリ ビーコンのアップロード状況] グリッドがあり、アップロードするファイルの数 (存在する場合)、ファイルが最初と最後にキューに送られた時刻、およびアップロード待機中の全てのファイル合計数を含み、各タイプのインポートで現在アップロード中のデータに関する情報を提供します。

無制限ライセンス タイプのサポート

ベンダーが無制限にソフトウェアの使用を許可する場合、FlexNet Manager Suite では今回より、使用許諾契約によって定義されたエンタイトルメント制限を特徴付ける規則を定義することができます。規則は、消費がエンタイトルメント制限を超過した場合にライセンスがどのようにフラグされるかを左右します。

ライセンス プロパティの [コンプライアンス] タブに新しい [エンタイトルメント制限] セクションが追加されました。ここで使用許諾契約によって定義されるエンタイトルメント制限を適切に特徴付ける規則を選択することができます。次の [エンタイトルメント制限] オプションがあります:

- ・ **購入分** — エンタイトルメント制限の上限として購入済みエンタイトルメントの数量を設定するライセンスの条件。消費が購入済みエンタイトルメントを超過すると、ライセンスは「リスクあり」とフラグされます。
- ・ **年次調整の対象** — 年次調整期間 の終わりに追加ライセンスが購入されることを前提に、消費が購入済みエンタイトルメントを超過することが許可されているライセンスの条件 (関連する購入契約で定義される)。消費が購入済みエンタイトルメントを超過しても、ライセンスは「準拠」のままです。
- ・ **無制限** — 無制限エンタイトルメントを許可するライセンスの条件。「年次調整対象」ライセンスとは異なり、「無制限」ライセンスでは超過を解決するために追加エンタイトルメントを購入する必要がありません。これは、エンタイトルメントまたは消費に一切制限がなく、ライセンスが常に「準拠」の状態であるためです。購入済みエンタイトルメントと消費の間

に関連性がないため、これらのライセンスには「不足/使用可能」がレポートされません。

大多数のライセンスおよびほとんどのベンダーの場合、[エンタイトルメント制限] には [購入分] が設定されます。



メモ: 以前はライセンスのプロパティにある [ID] タブに含まれていた [年次調整の対象] チェック ボックスに代わって、[エンタイトルメントの制限] セクションに [年次調整の対象] ラジオ ボタンが追加されました。さらに、様々なカスタム レポートの [年次調整の対象] 列は、[エンタイトルメント制限] に変更されています。[エンタイトルメント制限] 列に表示される有効な値には、[購入分]、[年次調整の対象]、および [無制限] があります。

エンタイトルメント制限の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

XenApp "Limit Visibility (ビジビリティの制限)" 機能のサポート

FlexNet Manager Suite では今回より、Citrix XenApp 7.6+ "Limit Visibility (ビジビリティの制限)" 設定をサポートします。この機能は、公開済みアプリケーションへのアクセスをアプリケーションが割り当てられているデリバリー グループ内で指定のユーザーまたはユーザー グループに制限することができます。

前提条件

最新の FlexNet Manager Suite Citrix XenApp エージェントの導入が必要です。

Oracle データベース オプションの追跡管理

Oracle オプションは、それが実行中のデータベースインスタンス上でローカルに管理されている可能性、または Oracle Enterprise Manager (OEM) を使ってリモートで管理されている可能性があるため、Oracle オプションが特定のデータベース インスタンス上でライセンス可能な状態として表示される理由が分かりづら場合があります。今回より、データベース インスタンスの新しいプロパティによって、これが追跡しやすくなります:

- 各データベース インスタンスのプロパティの [全般] タブで、Managing OEM プロパティは、最近のデータベース インスタンス管理を行ったのがどの Oracle Enterprise Manager インストールであったのかをレポートします。
- 同じプロパティの [オプション] タブでは、[使用中] 列にどの Oracle オプションがこのデータベース インスタンスでライセンス付与することが可能であるか、また新しい [有効] 列に各オプションが [このデータベース インスタンス] に対してローカルで有効化されているかどうか、あるいは [Oracle Enterprise Manager] によってリモートで有効化されているかどうかを示し、インストールが [全般] タブで識別されたことを意味します。

これらの新しい分析に特殊な構成は不要です。これは、FlexNet インベントリによる Oracle データベースおよびインスタンスの収集に関するすべての方法に対して使用可能で、唯一必要なのは、Oracle Enterprise Manager によって管理リポジトリとして使用されるデータベース インスタンスが、FlexNet インベントリが収集されるデータベース インスタンスであることです。



ヒント: Oracle Database 12c 以降を使用する場合、OEM リポジトリがプラグ可能なデータベース インスタンスで保存されている可能性があります。その場合、プラグ可能なデータベース インスタンスからインベントリをサポートするために、FlexNet インベントリ エージェント のバージョン 13.0.1 (FlexNet Manager Suite 2018 R1 hotfix 02 で配布) 以降が必要です。

Oracle サーバーにローカルでインストールされている FlexNet インベントリ エージェント をログ記録することが可能になったことで、各データベース インスタンスで検出されたオプションの詳細を含めることができるようになりました。これは、Oracle オプションのトラブルシューティングに役立ちます。

3

以前のリリースからの変更点

ファイル エビデンスの制御強化

検出 & インベントリ > [設定] ページで、[インベントリの設定] を使ってローカルにインストールされている FlexNet インベントリ エージェント がファイル エビデンスおよび ISO 標準ソフトウェア識別 (SWID) タグを検索する際、パスの制御が大幅に強化されています。デフォルトで FlexNet インベントリ エージェント はファイル エビデンスを収集せず、ISO で定義されている場所からのみ SWID タグを収集します。ただし、選択的にファイル エビデンスを収集する方法で、一部のアプリケーション認識を強化することができます。

新しいコントロールを使って、Windows、macOS、および Linux/UNIX ファミリー毎にそれぞれ複数の検索パスを指定することができます。これらは、ダウンロード済みのポリシーを通して各プラットフォーム上にインストールされている FlexNet インベントリ エージェント で自動的に共有されます (そのため、接続済みの インベントリ ビーコン を通して通信を行う任意のインストール済みエージェントで動作します)。指定された各パスに始まり、そのすべての子フォルダー内を再帰的にパスが検索されます。これらの検索パターンをより効率的に管理するため、下位フォルダーから除外する一連のパスを宣言することができるようになりました。

両方の定義 (含めるパスおよび除外するパス) には、* または ? ワイルドカード、Windows 環境変数 (%ProgramFiles(x86)% など)、および FlexNet 指定の変数 (\$(ProgramFiles) など)、およびプレーン テキストを含めることができます。

今回より、同じ設定のグループを使ってファイル エビデンスおよび SWID タグの両方を検索することができます。オンライン ヘルプに全詳細情報が掲載されています。

コア制限が編集可能となりました

Microsoft Server/Management Core ライセンス タイプには、(ライセンス契約で Microsoft が定義する) 各プロセッサおよび各ホストに対してライセンス付与しなくてはならない最小コア数を指定するための 2 つの設定があります。以前のリリースでは、一般的な値 (それぞれ 8 および 16) にハードコード化されていました。本リリースからは、特殊な場合に値を編集することができますが、デフォルトでは同じ通常値が使用されます。Microsoft Server/Management Core ライセンス専用のこれらの設定は、ライセンスのプロパティの [使用権 & 規則] タブに表示されます。

オンプレミスのコンテンツ ライブラリ更新におけるパフォーマンスの改善および構成設定

FlexNet Manager Suite 内でコンテンツ ライブラリを更新するプロセスを変更することによって、パフォーマンス、信頼性および復元性が大幅に改善されました。これらには ARL、PURL、SKU ライブラリ、および EOSL ダウンロードが含まれます。

Flexera クラウド ベースのインスタンスを使用中の場合、バックグラウンドに追加されたこの一連の改良によって、週末に行われるライブラリの更新前後に発生する遅延が減ります。

オンプレミス実装を使用中の場合、完全な更新処理（クリーンアップ、最新ライブラリのダウンロード、およびこれらのライブラリのインポートを含む）にかかる合計時間が、通常およそ 3 ～ 10 時間かかるところ、2 時間以下に短縮されます。

最新ライブラリのダウンロードおよびインポートを行う前に行う古いファイルのクリーンアップによって、処理の信頼性も向上します。これによって、タスクが使用中のファイルをクリーンアップしようとしたときに発生するエラーを回避することができます。

さらに今回より、すべてのコンテンツ ライブラリは、FlexNet Manager Suite へのインポートが開始される前に完全にダウンロードされます。また、マネージド サービス プロバイダーの場合、各製品使用権ライブラリは 1 回だけダウンロードを行います。この処理の回復力は、一時的なネットワークの問題など、外部的な要因によってもたらされた任意のダウンロード エラーに対して最大で 5 回まで再試行することによって強化されています。

ただし、（再試行にもかかわらず）ダウンロードが失敗したとき、後に続くインポートも実行されませんのでご注意ください。必要なトラブルシューティングに役立つ、新しいログファイルが利用できます。

コンテンツのダウンロードは バッチ サーバー 上（またはその機能をホストする同等のサーバー上）で実行され、ダウンロードのステージング場所へのパスは、今回よりそのサーバー上のレジストリ エントリを使って構成できるようになりました。

バッチ サーバー（または同等のサーバー）はインターネットにアクセスできないため、ライブラリを手動でダウンロードする場合、今回より一括スケジューラ コマンドを使って、ダウンロードされるライブラリのインポートを制御できます。一括スケジューラを使用することで、基になる実行可能ファイルを確実に安全な時だけ実行し、競合やエラーを回避することができます。

構成可能な要素、ログ ファイル、ダウンロード先、および一括スケジューラへの変更された呼び出しについての詳細は、*FlexNet Manager Suite 2018 R2 Installation Guide*（および *Upgrade Guide*）に記載されています（オンライン ヘルプのタイトル ページから取得できます）。バッチ サーバー がインターネットにアクセス可能な場合の処理は「*Populate the Downloadable Libraries*」、インターネットへのアクセスが不可能な場合は、その次の「*Manual Updates of Library Data*」トピックを参照してください。

Adobe Acrobat DC アプリケーション認識の改良

FlexNet インベントリを使用する時の（たとえば、FlexNet インベントリ エージェント、FlexNet Inventory Scanner、またはゼロ フットプリント インベントリ収集 によって収集される）、Adobe Acrobat DC (Document Cloud) 製品の認識機能がさらに改良されました。FlexNet Manager Suite は今回より、次の認識機能を搭載します：

- ・ Adobe Acrobat DC の無料体験版

- ・ Adobe Acrobat DC が continuous 版と Classic 版のどちらであるかを認識



メモ: 使用可能なエビデンスを使って Adobe Acrobat DC 製品のエディションを認識不可能な場合、“エディション”プロパティに [未指定] と表示されます。同様に、エディションまたはトラックが認識されない場合、この追加情報は表示されません。次は、使用可能なエビデンスに基づいた Adobe Acrobat DC (2018) Continuous Pro の表示例です:

- ・ 使用可能なエビデンスが Acrobat DC Continuous Pro の 2018 バージョン情報すべての情報を認識した場合、名前には Acrobat DC (2018) Continuous Pro、バージョンは DC (2018) Continuous、およびエディションには Pro が表示されます。
- ・ 使用可能なエビデンスが Acrobat DC の 2018 バージョンを認識したが、トラックまたはエディションを認識できなかった場合、名前には Acrobat DC (2018)、バージョンには DC (2018) のみ、およびエディションには 未定 が表示されます。

Linux RPM パッケージの署名

Linux RPM (Red Hat Package Manager) パッケージの署名を行うことで、FlexNet インベントリ エージェント の Linux RPM パッケージの独自のインストールを管理する場合にセキュリティ レイヤーを追加することができます。RPM パッケージのみ署名されます。DEB パッケージに変更はありません。



ヒント: Linux パッケージの署名によって、採用の自動プロセスまたは FlexNet インベントリ エージェント のセルフアップグレードに影響はありません。追加セキュリティは、Linux プラットフォーム上の RPM インストーラーを含むサードパーティ テクノロジーのみに有益です。

FlexNet インベントリ エージェント (13.1.0 から) の Linux RPM パッケージの両方で GPG (GNU Privacy Guard) を使った署名が行われます。

- ・ プライベート キーは Flexera によって安全に保管されます。
- ・ パブリック キーは、Inventory agent 13-1-0+ Linux RPM installer public key.zip というタイトルの個別のダウンロードとして製品 & ライセンス センターから取得することができます。このダウンロードにアクセスするためには、Flexera Customer Community (英語のみ) 用の会社のパスワードが必要です。キーを個別のパスワードで保護されたソースからダウンロードしなくてはならないこと自体が、セキュリティの強化につながります。

1 つのパブリック キーによって Linux FlexNet インベントリ エージェント の RPM パッケージのどちらか (Linux i386 または Linux x86_64) を承認できます。パブリック キーの収集およびインポートは、1 回限りの処理です。パブリック キーをダウンロードするには、以下の手順に従います:

1. ブラウザーを使って Flexera Customer Community にログインします。(Customer Community 用の会社のパスワードが必要です。)
2. ページ上部にある行から [ダウンロード] タブを選択して、製品一覧から FlexNet Manager Platform を見つけてから、その製品の下にある [上の製品にアクセス] ボタンをクリックします。[製品 & ライセンス センター] サイトが表示されます。
3. [ホーム] ページの [ダウンロード] セクションで、[FlexNet Manager Platform] のリンクをクリックします。
4. [パッケージのダウンロード] ページで [FlexNet Manager Platform] 2018 R2 のリンクをクリックして、ダウンロードにアクセスします。
5. Inventory agent 13-1-0+ Linux RPM installer public key.zip をダウンロードしてから、FlexNet インベントリ エージェント の Linux バージョンをインストールするターゲット デバイス上の場所に展開します。

パブリック キーがダウンロードされた後、署名済み RPM パッケージを検証またはインストールする前に、各ターゲット デバイス上にこれをインストールすることができます。

```
rpm --import pathWhereSaved/RPM-GPG-KEY-FlexeraSoftwareLLC
```



ヒント: Linux RPM パッケージをパブリック キーを配置せずにインストールすることを選択した場合、警告が発生します。警告を無視して、インストールを続行することも選択可能です。

パブリック キーがインストールされているとき、ダウンロード済みのインストール パッケージを通常の RPM コマンドで検証することができます:

```
rpm -K agentInstallationFile
```

結果の「md5 gpg Ok」は、パッケージの署名が検証されたことを意味し、パッケージが破損しておらず、FlexNet インベントリ エージェント を安全にインストールおよび使用することができます。

パブリック キーをセキュリティで保護して rpm にインポートすると、FlexNet インベントリ エージェント のすべての将来的なアップグレード/インストールもそのキーに対して検証することができます。

Flexera Analytics が Cognos Analytics 最新版を使用

Cognos Analytics R11 (11.0.11) へのオンプレミスおよびクラウド (SaaS) 両方の配布における Flexera Analytics の機能がアップグレードされました。このアップグレードによって、次の重要な機能が提供されます:

- ・ ダッシュボードまたはストーリーからレポートへのドリルスルー
- ・ ダッシュボードを PDF にエクスポート
- ・ ユニバーサル フィルター
- ・ TLS 1.2 を使った HTTPS アクセスのサポート

V11.0.7 から v11.0.11 で変更または追加された新しい機能の完全リストは、IBM Knowledge Center で Cognos Analytics 11.0.x の「[新機能および変更された機能 \(New and changed features\)](#)」ページを参照してください。

Flexera Analytics 調達サポート

Flexera Analytics の一部として提供されている Flexera データ モデルには、契約および購入関連データのサポートが追加され、調達データに関連するダッシュボードおよびレポートの作成機能が提供されています。これまでのウィジェット ライブラリに「調達」という名前の新しいタブが追加され、更新されたモデルを使って調達関連のウィジェットを作成するいくつかの方法を紹介します。詳細については、オンライン ヘルプのタイトル ページからアクセス可能な *FlexNet Manager Suite System Reference PDF* を参照してください。

ファイル エビデンス インポート後のデータベース クリーンアップの改良点

ファイル エビデンスをインポートするリーダー、および後でクリーンアップを行うライターに 2 つの強化が加えられました:

- ・ 以前は、クリーンアップ時に FlexNet Manager Suite の Web インターフェイス を通してオペレーターが調整を行った場合、クリーンアップでエラーが発生しました。これを回避するため、データベース メソッドが変更されており、また以前の任意のエラーからレコードが自動的にクリーンアップされます。
- ・ ImportedFileEvidence テーブルの一部のクリーンアップが失敗し、親のない (つまり、ImportedInstalledFileEvidence テーブルに一致するレコードを持たない) レコードが蓄積されることがありました。クリーンアップ機能が拡張され、蓄積された親のないレコードが削除されるようになりました。操作が必要な一連のデータを削減することで、このクリーンアップによって今後のデータベース パフォーマンスが向上します。



ヒント: これらの修正は Flexera Customer Community (ログイン要) に掲載されているナレッジベース記事 #000026779、「Improving database cleanup after importing file evidence」に関連しています。このリリースで変更点が FlexNet Manager Suite に組み込まれているため、その他の追加手順は不要です。

インベントリ スプレッドシートのテンプレート更新

FlexNet Manager Suite では、インベントリ ビーコン を使ったインベントリ データのインポート用に標準のテンプレートが用意されています。FlexNet Manager Suite で内部データ モデルが使用されている場合、各製品のリリースがアップデートされる際に、引き続き基礎となるデータベースとの一致が保たれるように、これらのテンプレートもアップデートされます。従って、インベントリ インポートのスプレッドシートを作成または編集するとき、常に最新版のテンプレートを使用することがベスト プラクティスです。特に、リリース 2018 R2 にはコンピューター インポートの変更済みテンプレートが含まれています。つまり、このインベントリ スプレッドシートのインポートがスケジュールされている場合、これらが最新テンプレートを使用するように更新する必要があります。



ヒント: このリリースで追加された列はすべてオプション データであるため、新しい列にデータを挿入する必要はありません。ただし、スプレッドシートには常にテンプレートで提供されているのと同じ列名を使って、指定された順番で正確に含めなくてはなりません。

コンピューター テンプレートに考慮すべき新しい列 (すべて クラウド サービス プロバイダー に関連します):

- ・ InstanceCloudID
- ・ CloudServiceProvider
- ・ InstanceAffinity
- ・ ImageID
- ・ LaunchTime
- ・ NetworkID
- ・ LifecycleMode

- Account
- ThreadsPerCore
- InstanceType
- Region
- AvailabilityZone
- InstanceTenancy.

強化された VMware インベントリ

FlexNet Manager for VMware 製品を購入された場合、VMware インベントリの収集機能が強化されています。今回より、vCenter Site Recovery Manager および VMware vSAN ソフトウェアのインストールを自動的に認識し、これらを [Vmware インベントリ] ページに含めます。

Oracle Advanced Analytics オプションの認識改良

Oracle データベースのバージョン 12c のリリースに伴い、使用可能な Oracle オプションが変更されました。その際、以前の [Data Mining] オプションが新しい [Advanced Analytics] オプションに組み込まれました。アプリケーション認識ライブラリ アップデート #2345 で、この変更がサポートされていて、新しいオプションのインベントリ収集も改良されました。以前のバージョンの [Data Mining] オプションの認識に変更はありません。[Advanced Analytics 12c] オプションが正しく関連ライセンスにリンクされていることを検証する必要があります。詳細は Flexera Customer Community ポータル (ログイン要) に掲載されているナレッジベース記事 #000028205 「Adjusting licenses for Oracle Advanced Analytics Option」() を参照してください。

Oracle インスタンス ページの強化

Oracle データベース インスタンスの一覧に、Oracle データベースをホストするインベントリ デバイス (つまり「Oracle サーバー」) の 2 つの新しいプロパティが追加されました:

- デバイスの状態
- デバイス ロール。

(データベース インスタンスではなく) 基本となるデバイスのプロパティは、Oracle インスタンスの長いリストの順番を並べ替えたりフィルターを適用したりして、例えばすべてのバックアップ システムを非表示にて稼働中のデータベース インスタンスに焦点を当てる場合などに役立ちます。

Oracle データベース インベントリの強化

以前のリリースでは、インベントリ ビーコン を Oracle データベース サーバーに直接接続して、任意のコンテナ データベース (Oracle 12 以降の場合)、および選択された検出方法を使って使用できるプラグ可能な任意のデータベース (TNSNames.ora ファイルなど) からインベントリを収集することができました。この機能に変更はありません。ただし、以前

は Oracle サーバー上で実行中のローカルで実行する ndtrack (コア インベントリ コンポーネント) のコピーを検出、およびプラグ可能なデータベースからインベントリの収集を行うことができませんでした。

今回より、この機能が ndtrack にも追加されました。トラッカーがターゲット インベントリ デバイス (Oracle サーバー) に配布される方法には影響されません。したがって、今回より次を使って、プラグ可能なデータベースからインベントリを収集することができます:

- ・ 完全な FlexNet インベントリ エージェント。インベントリ デバイスの「採用」中に自動的にインストールされるか、サードパーティ ツール/技術によってインストールされます。
- ・ ライトウェイト FlexNet Inventory Scanner。(UNIX 系プラットフォームの場合、ndtrack.sh シェル スクリプトとしてパッケージされます)
- ・ ゼロ フットプリント方式。インベントリ ビーコン がターゲット デバイス上に ndtrack をインストール、実行、およびその直後に削除します (インストール フットプリントは残りません)。

コンプライアンス データベースにインベントリがアップロードおよびインポートされた後 (通常、夜中に実行されます)、FlexNet Manager Suite の Web インターフェイス で [Oracle インスタンス] ページにプラグ可能なデータベースが表示されます。

- ・ コンテナ インスタンスの場合、そのインスタンス名の終わりに ~CDB_ROOT が付いています。
- ・ 各プラグ可能なデータベースは同じインスタンス名、チルダ文字、およびプラグ可能なデータベースの名前を表示します (containerInstance~pluggableDBName)。

UNIX 系のプラットフォームの場合、Oracle インベントリの収集には (ルートで実行する) FlexNet インベントリ エージェントが低いレベルの権利を持つ他の信頼されたアカウントを偽装する必要があるように構成することができます (詳細は、オンラインヘルプのタイトル ページからアクセス可能な *Gathering FlexNet Inventory* PDF に掲載されている「*Common: Child Processes on UNIX-Like Platforms*」トピックを参照してください)。このリリースでは、信頼性およびセキュリティ面の両方で偽装が強化されています。

移行によるコンプライアンス データベーススキーマの更新

FlexNet Manager Suite 2018 R2 へのアップグレードの一部であるデータベースの移行は、FlexNet インベントリ データベース内の 2 つのテーブルに直接的な影響を与えます。

- ・ 現在、通常はデータを含まないレガシー テーブル SoftwareFileProperty_MT が破棄され、置換もされません。(すべてのクラウド カスタマーは空白を予期しています。オンプレミスでは、(ほとんど可能性は薄いですが) カスタム インベントリ アダプターを使用するときに、このテーブルに触れないように気をつけてください。)
- ・ SoftwareFile_MT テーブルの SoftwareField 列で、以前の int 型が bigint 型に置き換えられました。

SoftwareFile_MT テーブルに含まれるレコードの数によって、データベースの移行の際、これらのキーを再生成するために多少余分に時間がかかる場合があります。これが直接データに影響をあたえることはなく、移行を最も早く完了させることができます。

その他のドキュメント強化内容

オンライン ヘルプおよび関連 PDF ファイルに次の内容が追加または変更されました:

- ・ インベントリ ビーコン の共有フォルダー `ManageSoftREA$`、`mgsREA$`、`ManageSoftRET$`、および `mgsRET$` が、オンライン ヘルプの [FlexNet Manager Suite Help > Inventory Beacons > Inventory Beacon Reference > File Paths for Inventory Beacon] に追加されました。
- ・ *FlexNet Manager Suite System Reference* PDF の「Oracle」章に記述されているライセンス エンタイトルメントを消費しない標準 Oracle ユーザーのリストが拡張されました。
- ・ 同じ章内で、「*Troubleshooting Agent-Based Collection of Oracle Inventory*」の下にあるトピックでは誤りが訂正され、より論理的な使用方法に書き換えられています。(別の形式の Oracle インベントリ収集におけるトラブルシューティングに関する類似トピックについても、将来的なリリースで改訂される予定です。)
- ・ インベントリ デバイスでブラックリストに載せられているシリアル番号に関するヘルプが改訂されました。
- ・ *Gathering FlexNet Inventory* PDF に、データソース間の違いについて、およびそれぞれのソースから不足している可能性のある情報について詳しく説明する新しい章が挿入されました。
- ・ 様々なアダプターおよびコネクタについてのドキュメントの合理化、および拡張が始まりました。第一段階では、インベントリ アダプターとコネクタに関連するすべてのコンテンツを収集して一巻にまとめ、同様にビジネス アダプターに関するコンテンツも一つにまとめます。
 - 「*FlexNet Manager Suite Adapters Reference*」タイトルが「*FlexNet Manager Suite Inventory Adapters and Connectors Reference*」、または省略して「*Adapters and Connectors*」に変更されました。
 - 「*Adapters and Connectors*」で、サポートされている XenApp および XenApp Agent が更新されています。
 - 「*System Reference*」から「*Adapters and Connectors*」に章を移動させて、3 つのトピック「*Managing Microsoft Office 365 Licenses*」、「*Salesforce Subscription Management*」、および「*The Inventory Adapter Studio*」が追加されました。これによって、インベントリ アダプターの使用と作成についての説明が 1 つのリファレンスに統合されました。
 - これと同時に、これまでは「*Using FlexNet Business Importer*」だったタイトル名が「*Using FlexNet Business Adapters*」に変更されています。Business Importer 内のすべての内容は、「*System Reference*」からそのまま「*The Business Adapter Studio*」に統合されました。

4

全般情報

使用許諾契約

お客様の会社がライセンスを購入して、Flexera または公認 Flexera のリセラーとのソフトウェア使用許諾契約書に同意した場合、このソフトウェアの使用に関して、その使用条件が適用されます。そうでない場合、評価または全額支払い済みのライセンスを基本として、このソフトウェアの使用は、ダウンロード済みのインストール パッケージに含まれている、クリックスルー形式の FlexNet Manager Suite エンドユーザー使用許諾契約に基づいた使用条件が適用されます。

該当するソフトウェア使用許諾契約に同意できない場合、いずれのコンピュータにも FlexNet Manager Suite をインストールすることはできません。また、既にインストール済みの場合、これをインストール済みのすべてのコンピュータから削除する必要があります。また、所有するソフトウェアのすべての複製を返却または破棄しなくてはなりません。

ライセンスの互換性

FlexNet Manager Suite 2017 R3 以降からのアップグレードの場合、このリリースでアップデート済みライセンスは不要です。以前の任意のリリースからアップグレードを行うには、Flexera Analytics をインストールするためにアップデート済みライセンスが必要です。

何らかの理由で、オンプレミス カスタマーに新しいライセンス キーが必要な場合、support@flexera.com にご連絡ください。ライセンスが作成された後、要求者に電子メールが送信され、そのコピーが製品 & ライセンス センターに保管されます。アップデートされたライセンスは、FlexNet Manager Suite にインポートする必要があります。

バグ修正

FlexNet Manager Suite 2018 R1 のリリース以来、FlexNet Manager Suite 2018 R2 リリースでは、次の問題が修正されました。

案件番号	概要
IOJ-1884784	XenApp Server Agent import step CopyingAllUserstoTemptable times out with many AD group memberships
IOJ-1861640	Japanese characters are garbled in Oracle NDI file (direct collection via Beacon)

案件番号	概要
IOJ-1870025	Unable to access Flexera Analytics via SAML with certain identity providers
IOJ-1846909	Agent getting stuck after collecting Oracle inventory on AIX servers
IOJ-1850832	Inherited location for an inventory device from an asset is lost when any manual change is made in the inventory device's properties
IOJ-1871365	An inventory file may fail to import when another inventory file, for the same device, is imported with different custom property values
IOJ-1849587	Error message — System.ArgumentException: An item with the same key has already been added (Custom Property issue)
IOJ-1869174	FlexNet Inventory Manager import will fail when Sum of Hard Disk size for a device is greater than 9,223,372,036,854,775,807 bytes
IOJ-1869799	Error occurs when adding/editing a custom consumption exemption reason
IOJ-1881590	Arithmetic overflow due to bigint into int during FlexNet Manager Suite license check
IOJ-1879369	Large CSV exports perform poorly with high CPU usage on presentation server
IOJ-1882282	mgsDatabaseUpdate can incorrectly increment the migration step number when a step fails
IOJ-1824740	ActiveDirectory writers fail if information from one domain is imported from multiple sources
IOJ-1887327	FNMS presentation server CPU utilization goes to 100% as a result of SAP license reconciliation operations
IOJ-1882494	SAP GUID is truncated by staging monitor since 2016R1
IOJ-1878688	Removing an application which is linked to a license that has upgrade/downgrade rights can cause the license to fail to open
IOJ-1864895	Some assets cannot be linked to an inventory device
IOJ-1865851	Linked Assets and Licenses may be deleted from a Contract when saving Contract properties
IOJ-1827746	Oracle licenseable options from OEM instance for remote instances left unmanaged in IM
IOJ-1889730	Imports from BMC ADDM may fail if multiple last logged on users are reported by ADDM
IOJ-1884928	Business adapter imports which fail may cause assets to be created which can never be linked to inventory devices
IOJ-1723893	Environment variables cannot be entered to include file path scan
IOJ-1870916	Microsoft Office 365 adapter fails to execute on FlexNet Manager Suite 2018 R1 with an inventory beacon that is not upgraded to 2018 R1

案件番号	概要
IOJ-1867650	Microsoft Server/Management Core license, a license consumption calculation of the virtualization rights for Microsoft CIS 2016 Standard is incorrect
IOJ-1852886	File evidence that is no longer imported from the inventory source is not removed
IOJ-1859881	'Product use rights & rules', 'Upgrade rights', and 'Upgrade until' date functionality do not work when the 'Upgrade until' date is supplied from the 'End of Service Life' product
IOJ-1754077	Locally-installed FlexNet inventory agent does not support inventory of Oracle 12c pluggable databases
IOJ-1724376	SQL Tuning Set causes Real Application Testing and Oracle Tuning Pack to be marked as installed
IOJ-1864172	ActiveDirectoryImport.exe is called by BeaconEngine.exe using plain text passwords in command line
IOJ-1737107	AD import may fail if AD includes CNF replication conflicts
IOJ-1847984	Unused Oracle Options consume if no Database Instances are reported
IOJ-1818015	Oracle Server Worksheet does not exclude non-licenseable installations
IOJ-1870174	SCCM reader does not import domains where the domain flat name exists in another source
IOJ-1885840	Used value for applications is set incorrectly for oracle instances managed by OEM
IOJ-1764318	IBM Information Server: Development VMs consuming 'Production' license
IOJ-1836717	Oracle EBS should be cleaned as a part of Stale Oracle Cleanup
IOJ-1885962	Oracle options enabled by OEM with different version would not consume
IOJ-1816129	Compliance and Business imports fail when FlexNet Manager Suite is waiting for a ServiceNow export to complete
IOJ-1857917	FlexNet Manager Suite cannot differentiate between usage of the Oracle Spatial and Locator options
IOJ-1874887	Inaccurate license consumption for Oracle Compression Advisor option after option fails
IOJ-1842842	Oracle 11g and later: Real Application Testing should not be calculating Installation/Usage based on SQL tuning set
IOJ-1845450	On SuSE 12 SP2 and later, installation of FlexNet inventory agent fails when ndtask.service cannot start

案件番号	概要
IOJ-1869700	Upgrading FlexNet inventory agent on CentOS / Oracle Linux 7.4 fails when earlier version does not support custom paths
IOJ-1866549	User Assignments and Enterprise Groups one-off uploads accordions are missing for newly created and cloned roles
IOJ-1844320	Incorrect core factor used for Itanium processor purchased before Dec 1, 2010
IOJ-1748348	Unable to Save when multi-editing Inventory devices or Assets Status are different values
IOJ-1759887	Renamed windows device does not update following inventory import
IOJ-1871171	Error when expanding the 'License - Has maintenance' section in the 'License and Maintenance Expiry' page
IOJ-1867384	Location may get overridden on virtual machine multi-edit
IOJ-1779956	SAPReader Fails to Import With Error 'Violation of UNIQUE KEY constraint 'UQ_SAPActivityCheckWorkTime''
IOJ-1879110	'Active Data Guard' is detected as installed from Oracle Database Express Edition
IOJ-1733057	Edit icon incorrectly displays when the 'Rename an existing role' option for a Role is restricted
IOJ-1764278	View Only Operator receives "problem 403 unauthorized" error when accessing Oracle Instances
IOJ-1836604	Agent random inventory schedule is insufficiently random
IOJ-1712211	For non-mandatory field validation errors, the tab with the error is not highlighted
IOJ-1719453	Sites displayed in the Subnets page are not sorted
IOJ-1700807	If LastKnownActivityTime is Null, beacon status update does not update LastKnownActivityTime
IOJ-1873202	On macOS, installation of FlexNet inventory agent fails because MGSFT_RUN_CONFIGURE is not found
IOJ-1865807	Large native inventory files fail to upload from the Beacon in complex network environments
IOJ-1871486	Uploads to inventory servers are not load balanced evenly
IOJ-1864471	Agent-based Oracle inventory fails when there are restricted permissions on Oracle directories
IOJ-1854740	Least privilege credentials for O365 connector are incorrect

案件番号	概要
IOJ-1881510	Citrix server agent adapter may not report remote usage when installer evidence is not present
IOJ-1869873	Oracle instance properties shows incorrect 'Last inventory date'
IOJ-1858647	IsUsed flag set to No despite reporting a recent LastUsedDate
IOJ-1863274	Performance issue with DeviceSummary SQL view
IOJ-1864277	One-off upload can hang if values have word wrapping
IOJ-1858518	Sort is not working properly on some columns of the All Application page
IOJ-1887292	ActiveDirectoryImport.exe tool is incorrectly importing conflict site/subnet AD objects
IOJ-1883146	Contract management portal giving a 500 error while trying to open a contract detail
IOJ-1875506	BMC Discovery (ADDM) adapter import fails when HostKey field is null
IOJ-1881737	Oracle instance should show license able options with mismatching version
IOJ-1764212	FlexNet Manager Suite does not show correct export status
IOJ-1875008	ARL update fails in the environment when SQL Server is configured with an Availability Group
IOJ-1883935	Large Active Directory imports with many OUs will fail to import due to timeouts
IOJ-1864193	Save inventory settings fail if include directory path is longer than 256 characters
IOJ-1868151	CAL License in All License grid, consumed, raw consumption and used counts not updated when server computer is deleted
IOJ-1869118	Release Information in Admin Module shows 2016 version when using FNMS 2017 R2 for SAP
IOJ-1835633	ServiceNow export does not check for instance while performing delta exports
IOJ-1879689	Inventory imports from Salesforce may hang at the Get-Users step
IOJ-1871488	Database caching on inventory server does not expire/evict objects under memory pressure
IOJ-1860143	OracleLMSAuditEvidence has incorrect value for the 'Total logical cores' column
IOJ-1867017	The SaaS Usage report may fail to run
IOJ-1873541	DirectoryBinder caches are not multi-tenant
IOJ-1806425	Oracle LMS audit evidence export should not include ignored devices
IOJ-1864955	XenApp import can fail when there is a hyphen in the database name

案件番号	概要
IOJ-1759941	Cognos does not authenticate using https
IOJ-1827137	Compliance import may take an inordinately long time at ApplicationAlerts and EvidenceAlerts
IOJ-1860095	/LICMAN/SAPLSD_COLLECT when running Staging database monitor – Invalid access to a string (offset and length too big)
IOJ-1885938	Sorting by an alphabetic column does not work after 3 pages.
IOJ-1871748	Custom property values are lost when AssetType is changed via a business adapter
IOJ-1851934	Status filter cannot be removed from the “Rule Execution Details” page
IOJ-1715775	In IE11, some strings in a drop-down box are longer than the width of the drop-down box
IOJ-1818825	Timeout occurring on GetAppV5UserAccess function (SMS installer evidence adapter)
IOJ-1892657	Null reference exception on Citrix 6.5 when no data is gathered.

既知の問題

FlexNet Manager Suite 2018 R2 リリースに関する既知の問題一覧は、リリース時に Flexera サポート サイトで参照できます。詳細は、Knowledge Base記事「[Known Issues for FlexNet Manager Suite 2018 R2 \(FlexNet Manager Suite 2017 R1 に関する既知の問題\)](#)」を参照してください。

ドキュメント

FlexNet Manager Suite 2018 R2 のドキュメントは、オンライン ヘルプとして提供されています。Web ユーザー インターフェイスから、疑問符記号のアイコンをクリックしてヘルプを起動してください。追加ドキュメントは、オンライン ヘルプのタイトル ページから取得することができます。オンライン ヘルプおよび追加ドキュメントは、その内容が必要に応じてカスタマイズされているため、すべてのドキュメントはオンプレミス バージョンとクラウド バージョンで異なります。オンプレミス カスタマーは、[Documentation Center](#) から追加ドキュメント ファイルにアクセスが可能です。

ドキュメントの要素	言語
オンライン ヘルプ	英語
	ドイツ語
	フランス語 – FlexNet Manager for SAP Applications の機能について
追加 PDF ドキュメント	英語
	ドイツ語 – FlexNet Manager for SAP Applications ユーザー ガイドおよびインストール ガイド

インストールおよびアップグレードに関する詳細は、このドキュメントの「[インストールおよびアップグレードについてのアドバイス](#)」セクションを参照してください。

その他の情報

項目	説明
FlexeraWeb サイト	Flexera についての情報 http://www.flexera.com
Flexera システム ステータス ダッシュボード	Flexera のクラウド製品についての現在のリリース状況を表示します。 https://status.flexera.com
サポート	サポート Web サイト (Knowledge Base を含む) (英語のみ) https://flexeracommunity.force.com/customer
製品ダウンロード	Flexera製品 & ライセンス センター https://flexera.flexnetoperations.com/flexnet/operationsportal/startPage.do
製品についてのお知らせ用の電子メール サインアップ	ホットフィックスを含む FlexNet Manager Suite のソフトウェア アップデートに関する通知 http://learn.flexerasoftware.com/SLO-FMS-Software-Content-Library-Updates

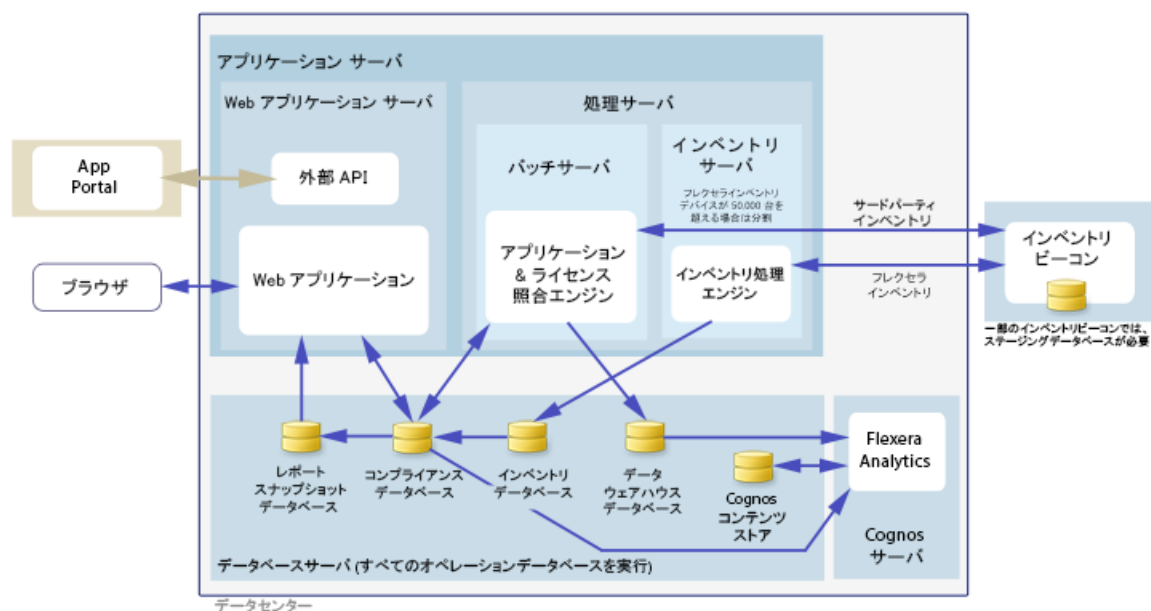
5

システム要件

システム要件は、10,000 台から 200,000 台範囲のデバイスを含む一般的な実装に基づきます。規模の大きい実装の場合、Flexera グローバル コンサルティング サービス チームまたは大規模な FlexNet Manager Suite の経験豊富な Flexera パートナーにお問い合わせください。

次の図は、標準的な実装の構造を説明します：

図 1: 標準的な実装の構造



実装に適切な推奨サーバー数については、*Installing FlexNet Manager Suite 2018 R2 On-Premises* ガイド (英語のみ) を参照してください。

FlexNet Manager for SAP Applications 機能のみを使用する実装のサイズに関する推奨条件については、*Installation Documentation for FlexNet Manager Suite 2018 R2* ダウンロード ファイルで提供されている *FNM-SAP Sizing Guidelines 2018 R2* ガイド (英語のみ) を参照してください。

クラウド

これらの接続詳細は、FlexNet Manager Suite の SaaS またはクラウドバージョンを使用する場合のみ関連があります。

分類	要件	
DNS ホスト名 クラウド 実稼働環境	www.flexnetmanager.com www.flexnetmanager.eu	
DNS ホスト名 クラウド ユーザー承認テスト (UAT)	uat.flexnetmanager.com uat.flexnetmanager.eu	
DNS ホスト名を使用しないクラウド カスタマーが必要な IP 範囲	US ドメイン: 実稼働環境 – 64.14.29.0/24 障害復旧 – 64.27.162.0/24 EU ドメイン: 実稼働環境 – 62.209.49.0/24 障害復旧 – 162.244.221.0/24	インベントリ ビーコンと FlexNet Manager Suite Cloud 間のファイアウ オールにおけるネットワーク構成に は、DNS ホスト名の使用が推奨され ます。予告なし、または限られた通知 のみで IP アドレスが変更になる場合 があります。

ハードウェア要件

アプリケーション サーバー

分類	要件
プロセッサ	4 コア (オペレーターが 100 人以上の場合は 8 コアまで)
メモリ	8 GB
システムドライブ	60 GB これには、ARL、PURLs、SKU ライブラリ、および EOSL に使用される DataImport フォルダー用の許容量 8 GB を含みます。

データベース サーバー

分類	要件	
プロセッサ	オペレーター 100 人につき 4 コア	
SQL Server で使用可能なメモリ	デバイス 50,000 台につき 16 GB	
システムドライブ	40 GB	
データドライブ (シンプルなデータベース回復モデル に基づく、標準的なサイズ)	コンプライアンス データベース データ	10,000 デバイスごと: 初年度 25 GB + 15 GB 追加/年

分類	要件
コンプライアンス データベース ログ	デバイス 10,000 台につき 20 GB
インベントリ データベース データ	デバイス 10,000 台につき 20 GB (FlexNet インベントリ使用)
インベントリ データベース ログ	デバイス 10,000 台につき 10 GB (FlexNet インベントリ使用)
レポート スナップショット データベース データ	10 GB
レポート スナップショット データベース ログ	10 GB
データ ウェアハウス データベース データ	20 GB (1,000 ライセンスに基づく)
データ ウェアハウス データベース ログ	20 GB
tempdb データ	デバイス 10,000 台につき 5 GB
tempdb ログ	デバイス 10,000 台につき 1 GB
Cognos コンテンツ ストア データ + ログ	1 GB
合計	デバイス 10,000 台につき 60 GB + 80 GB
年間増加率	デバイス 10,000 台につき 15 GB

Flexera Analytics (Cognos) Server

分類	要件
プロセッサ	4 コア
メモリ	16 GB + 推奨
システムドライブ	100 GB

FlexNet Beacon

分類	要件
プロセッサ	2 コア
メモリ	最小 4GB、8 GB 以上推奨

分類	要件
最小空きディスク領域	デバイス 10,000 台につき 1 GB

FlexNet インベントリ エージェント

分類	要件
プロセッサ	1 コア
メモリ	最小 512MB、2 GB 以上推奨
最小空きディスク領域	25 MB インストール + 100 MB ワークスペース

ネットワーク要件

分類	要件
Internet Protocol バージョン	IPv4、IPv6 およびデュアルスタック リモート実行（たとえば、リモート検出およびインベントリの収集）には IPv4 が必要です。 FlexNet Manager Suite Cloud およびトップ階層のインベントリ ビーコン サーバー間のコミュニケーションには IPv4 が必要です。 Microsoft CAL デバイス ライセンスの計算には、CAL エビデンスの収集およびコンピューター インベントリに IPv4 が必要です。
ポート	中央 アプリケーション サーバー へのアクセスには、最低 80 (HTTP の場合) または 443 (HTTPS の場合) が必要です。  メモ: その他のオプション インベントリ ソースには、追加ポートが必要です。詳細については、オンラインヘルプの「Ports and URLs for inventory beacons」を参照してください。

その他の製品との互換性

このセクションでは、リリース時における FlexNet Manager Suite 2018 R2 およびその他の Flexera 製品との互換性について説明します。

同一サーバー上にインストール

次の表に、FlexNet Manager Suite 2018 R2 アプリケーション サーバーと同じサーバー上にインストールされた、サポート対象コンポーネントの一覧が表示されます。

コンポーネント	FlexNet Manager Suite 2018 R2 と同一サーバー上にインストール可能なバージョン
FlexNet インベントリ エージェント	2018 R2
FlexNet Beacon	2018 R2
Flexera Analytics	2018 R2

その他の製品との統合

FlexNet Manager Suite は、次の製品およびコンポーネントとの統合が可能です。サードパーティ製品のサポートは、元のソフトウェアベンダーが公言しているサポート日にに基づきます。その環境が元のソフトウェア製作者によるサポートを終了している場合、Flexera は「現状のまま」サポートを提供します。つまり、任意の欠陥修正または強化の責任は持ちませんが、問題のトラブルシューティングを行います。この表は、現在サポートされているバージョンの詳細です:

製品/コンポーネント	インポート元のバージョン
App Portal	2013 R2-2017 R2
BDNA Normalize (Data Platform)	5
BMC Atrium CMDB	8.1 – 9.1, 18.05 (Atrium Integrator バージョン 8.1-9.1.03 要)
	 メモ: FlexNet Manager Suite On-Premises でのみ使用できます。
BMC BladeLogic Client Automation (Marimba)	8.2
BMC Discovery (ADDM)	9.0、10.0-10.2、11.0-11.3
BMC Remedy ITSM アプリケーション	7.6.04 SP4 から 9.1
	 メモ: FlexNet Manager Suite On-Premises でのみ使用できます。
Citrix XenApp EdgeSight	55.4、7.6、7.14-7.16 (Platinum ライセンス要)、7.17、7.18
Citrix XenApp Server	6.0、6.5、7.5-7.9、7.11-7.18
Citrix XenDesktop	5.6、6.0、6.5、7.5、7.6、7.8、7.9、7.11-7.18
FlexNet Manager for Engineering Applications	15.5、2016 R1、2016 R2、2016 R2 SP1
HP Discovery および Dependency Mapping Inventory (DDMI)	9.30
HPE Universal Discovery (HP-UD)	10.10、10.11、10.33

製品/コンポーネント	インポート元のバージョン
Microsoft SQL Server 上の IBM BigFix プラットフォーム (以前の名称は Tivoli Endpoint Manager)	8.2、9.5  ヒント: 個別の IBM BigFix 製品を混同しないようにしてください。IBM BigFix Platform (通常「BigFix」と呼ばれます) および IBM BigFix Inventory は個別のものです。IBM BigFix Platform が唯一の IBM BigFix 製品である場合、ここからインベントリをインポートすることが可能です。しかし、IBM BigFix Inventory も搭載している場合、通常、インベントリのインポートは IBM BigFix Inventory からのみ必要です (下を参照)。
IBM DB2 上の IBM License Metric Tool (ILMT) または IBM BigFix Inventory	- IBM BigFix Inventory は以前は IBM Software Usage Analysis (SUA) と呼ばれ、SUA (IBM DB2 上) はバージョン 9.0、9.1 用でサポートされています。 - ブランド再構築が行われた 9.2.1 以降の IBM BigFix Inventory (IBM DB2 上) は、バージョン 9.2.3-9.2.11 でサポートされています。 - IBM DB2 上の ILMT は、バージョン 9.0、9.1、9.2.3-9.2.11 でサポートされています。
IBM License Metric Tool (ILMT) または Microsoft SQL Server 上の IBM BigFix Inventory	- Microsoft SQL Server 上の IBM BigFix Inventory: 9.2.3-9.2.8 - Microsoft SQL Server 上の ILMT: 9.0、9.1、9.2.3-9.2.8
IBM Passport Advantage	2014 年 11 月現在
Microsoft App-V Integration Server	4.6、5.0、5.1
Microsoft Exchange ActiveSync	2010
Microsoft Hyper-V	実行プラットフォーム: - Windows Server 2016 - Windows Server 2012 R2 - Windows Server 2012 - Windows Server 2008 R2 x64 Server Core - Windows Server 2008 R2 x64 - Windows Server 2008 x64 Server Core - Windows Server 2008 x64
Microsoft SCCM (旧 SMS)	2007、2012、2012 R2、1511、1602、1606、1610、1702、1706、1710、1802

製品/コンポーネント	インポート元のバージョン
Oracle Database	8i、9i、10g、11g、11g Release 2、12c メモ: ・ 8i – ダイレクト インベントリ ビーコン 接続が必要 ・ 9i – Windows の名前付きアカウントまたはダイレクト インベントリ ビーコン 接続が必要 ・ 12c – ローカル エージェントを使用する Oracle Multitenant オプションはサポートされていません
Oracle Enterprise Manager	12.1–13.2
Oracle VM Server for x86	3.2–3.4.3
ServiceNow	・ Helsinki ・ Istanbul ・ Jakarta ・ Kingston
Symantec IT Management Suite (Altiris)	6.5、7.1、7.5
VMware vSphere/vCenter/ESXi	5.0–6.7  メモ: ESXi の無償ライセンス バージョンで、リモート インベントリを行うことはできません。
Workflow Manager	2014–2016

 メモ: さらに詳しい情報は、オンライン ヘルプの最初のページに掲載されている *Gathering FlexNet Inventory ガイド* を参照してください。

インベントリ コンポーネント

次の表には、FlexNet Manager Suite 2018 R2 で管理可能な FlexNet Beacon および FlexNet インベントリ エージェント バージョンが一覧で表示されます。

コンポーネント	互換性のあるバージョン
FlexNet インベントリ エージェント (Windows)	8.5-9.2、2014-2018 R2
FlexNet インベントリ エージェント (Linux)	 メモ: 以前のバージョンは、スケジュールに基づいてデフォルト ポリシーを受け取り、インベントリを収集する機能の面で互換性を持ちます。より新しい、次のようなエージェント機能はサポートされていません: ・ Internet Protocol バージョン 6 (IPv6) ・ (.Ini ファイルおよびレジストリ コントロールではなく) UI 設定を使った 使用率追跡の制御 (2014 (R1) より) ・ IP アドレスがターゲットとする設定 (2014 (R1) より) ・ CAL インベントリ (2016 R1)
FlexNet インベントリ エージェント (Solaris)	
FlexNet インベントリ エージェント (Mac OS X)	
FlexNet インベントリ エージェント (AIX)	
FlexNet インベントリ エージェント (HP-UX)	
Citrix XenApp サーバー エージェント	2014 R3-2018 R2
FlexNet Beacon	2017 R2-2018 R2
	 ヒント: このリリースで古い インベントリ ビーコン も引き続き機能しますが、Flexera は少なくとも表示されている範囲までアップデートすることを強く推奨します。 ・ Citrix XenApp インベントリには FlexNet Beacon 2014 R2 以降が必要です。 ・ AWS EC2 コネクタには FlexNet Beacon 2018 R2 (13.1.x) 以降が必要です。

前提条件ソフトウェア

FlexNet Manager Suite 2018 R2 リリース時にサポート対象のオペレーティング システムおよびソフトウェア前提条件は次の通りです。別途記載が無い限り、リリースのサポートには、同じリリースに対してリリースされるすべての公式サービス パックのサポートも含まれます。

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
アプリケーション サーバー	- Windows Server 2016 - Windows Server 2012 R2 - Windows Server 2012 - Windows Server 2008 R2 x64 SP1-SP2	次の 3 つの前提条件は、マルチサーバー実装の各サーバーに適用します: - Microsoft .NET Framework 4.5-4.7.2 (ASP.NET の登録は、<i>Installation</i> または <i>Upgrading PDF ファイルの「Configure .NET and IIS」</i> セクションに記述されています) - Microsoft Internet Information Services 7.0-10.0 - Microsoft Message Queuing (MSMQ) 次の追加前提条件は、バッチ サーバー コンポーネントがインストールされている場合のみ適用します。  重要: 環境内には、必ず 1 つだけ バッチ サーバー が必要です。バッチ サーバー は独自のサーバーにインストール、または Web アプリケーション サーバー あるいはインベントリ サーバーのどちらかに並置することができます。またはすべてのコンポーネントを単一の アプリケーション サーバー にインストールすることも可能です。バッチ サーバー がインストールされている時は常に次の前提条件が適用します。 - Microsoft Access Database Engine (32 ビット) - SQL Server 機能: クライアント ツール接続、管理ツール

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
データベース サーバー (Cognos データベース サーバーを含む)	- Windows Server 2016 - Windows Server 2012 R2 - Windows Server 2012 - Windows Server 2008 R2 x64 SP1	- SQL Server 2016 SP1 * - SQL Server 2014 - SQL Server 2012 - SQL Server 2008 R2 - SQL Server クライアント ツール (同一バージョン)



メモ:

- Microsoft SQL CLR 統合を有効にする必要があります。
- * Cognos コンテンツ ストア データベースを含み、任意の FlexNet Manager Suite データベースを SQL Server 2016 上で実行する際、互換性レベルを SQL Server 2012 (110) に設定する必要がありますSP1。また、致命的な SQL Server 2016 のエラーが SP1 で修復されているため、少なくとも SP1 以上を適用してください。
- マルチテナント インストールには、SQL Server Enterprise Edition が必要。シングルテナント インストールには、任意の SQL Server エディションを使用可能。
- レガシー契約管理 Web ポータルを使用しているカスタマは、ドキュメント内部を検索できるようにフルテキスト インデックスを有効化してください。
- Flexera Analytics を使用するには、Microsoft SQL Server で TCP/IP プロトコルが有効化されていること、またデータベース サーバーと通信するためのネットワーク アクセス許可が必要です (これは、ファイヤーウォールによってブロックされている可能性があります)。

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
Flexera Analytics / Cognos Server  メモ: Flexera Analytics サーバーは、マルチテナントインストールでサポートされていません。	- Windows Server 2016 - Windows Server 2012 R2 - Windows Server 2012	.NET Framework 4.5–4.7.2 (ASP.NET の登録は、<i>Installation</i> または <i>Upgrading PDF</i> ファイルの「<i>Configure .NET and IIS</i>」セクションに記述されています)  重要: コンテンツ ストア データベースを実行中のデータベース サーバー以外のサーバーに Flexera Analytics をインストールする場合、Flexera Analytics をホストするサーバー上に Microsoft SQL Server Native Client 2012 をインストールする必要があります (この Native Client 2012 バージョンは、リモート データベースとして互換性モードが正しく設定された SQL Server 2016 SP1 を使用する場合、正しく相互運用することができます)。
FlexNet Manager for SAP Applications の管理モジュール トランスポート	SAP Basis リリース (7.0 および 7.5 の間)	SAP リリースに一致する SAP GUI をインストールする必要があります。
FlexNet Manager for SAP Applications のサテライト トランスポート	SAP Basis リリース (4.6C および 7.5 の間)	前提条件なし
Web ブラウザー	- Microsoft Internet Explorer 10–11 - Microsoft Edge for Windows - Google Chrome 64–68 - Mozilla Firefox 57–61 - Apple Safari 9–11 Flexera Analytics メニュー オプションの一部は、Chrome ブラウザーで利用できません。詳細については、「IBM Knowledge Center (英語のみ)」記事を参照してください。 Web ブラウザー リリースのサポートを検証することはできませんが、現時点で、将来的なリリースに問題は確認されていません。	Flexera Analytics は、Microsoft Edge との互換性はありません。 最小スクリーン解像度 1024 (水平方向のピクセル) が必要です。

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
FlexNet インベントリ エージェント	- Windows Server 2008 R2 x64、2012、2012 R2、2012 R2 SP1、2016 - Windows Server Core 2008、2008 R2 x64、2012、2012 R2、2016 - Windows Vista x64、7 x64、8 x64、10 x64 - Windows Vista、7、8 10 - AIX 7.1 LPARs、7.2 - Amazon Linux 2 - CentOS 6-7.5 (x86、32 ビット および 64 ビット) - Debian 7-8.6 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、9.2.1 (x86、64 ビットのみ) - Fedora 25、26 (x86、32 ビットおよび 64 ビット)、28 (x86、64 ビットのみ) - HP-UX 11i v3、vPars/nPars - Mac OS X 10.6-10.10、10.11-10.13 (Gatekeeper は無効化する必要があります) - OpenSuSE Leap 42.2、42.3 (x86、32 ビット および 64 ビット)、15 (x86、64 ビットのみ) - Oracle Linux 4.5-7.0 (x86、32 ビット および 64 ビット)、7.4、7.5 (x86 64 ビットのみ) - Red Hat Enterprise Linux 5-7 (x86、32 ビット および 64 ビット)、7.4、7.5 (x86 64 ビットのみ) - Red Hat Linux 8-9 (x86 のみ) - Solaris 8-11 (SPARC)、Zones バージョン 10-11 - Solaris 9-11 (x86)、Zones バージョン 10-11 - SuSE Enterprise Server 12.3 (x86 64 ビットのみ)、11 および 12 (x86、32 ビットおよび 64 ビット) - Ubuntu 12-17.04 (x86、32 ビットおよび 64	前提条件なし

コンポーネント	オペレーティング システム	前提条件ソフトウェア
	ビット)、18.04 (x86 64 ビットのみ)	
FlexNet Beacon	- Windows Server 2016、2012 R2、2012、2008 R2 x64 - Windows 10 x64、8 x64、7 x64 - Window 10、8、7	.NET Framework バージョン 4.5.x-4.7.2 - 任意のサポート対象 Web ブラウザー - Oracle OLE DB Provider (32 ビット)、バージョン 10.2.0.3 以降 (Oracle データベース インベントリ用) - IBM OLE DB Provider (32 ビットまたは 64 ビット) (DB2 データベースからデータをインポートするための接続用)ドライバが 32 または 64 ビットのどちらであるかは、オペレーティング システムによって決まります。64 ビットのオペレーティング システムでは、64 ビットドライバが必要です。 - PowerShell 3.0+ - AWS への接続には、AWS Tools for PowerShell バージョン 3.3.283.0 以降も必要です。 - Office 365 では次が必要です: 64 ビット サーバー オペレーティング システム .NET Framework 4.5.2 Microsoft オンライン サービス サインイン アシスタント (64 ビット バージョン) Microsoft Azure Active Directory PowerShell Module Skype for Business Online PowerShell Module

6

インストールおよびアップグレードについてのアドバイス

FlexNet Manager Suite リリース 2017 R1 以降からオンプレミス実装をアップグレードする場合、(下の一覧からアップグレードドキュメントを使って) 通常のアップグレード手順に従ってください。

以前の任意のリリース (2014 - 2016 R2) からアップグレードする場合、確実にすべてのコンポーネントをアップグレードしてください:

- ・ アプリケーション サーバー (オンプレミス実装の場合、通常のアップグレード手順を使用)
- ・ フル FlexNet インベントリ エージェント、簡易 FlexNet Inventory Scanner、およびすべてのインストール場所にある FlexNet コア インベントリ コンポーネントを含むすべての FlexNet インベントリ ツール
- ・ 全てのインベントリ ビーコンにインストールされているFlexNet Beacon

この推奨は、2017 R1 以降のバージョンでリリースされたすべてのコンポーネントに関係する継続的なセキュリティ保護の強化に基づくものです。



ヒント: クラウド (SaaS) 実装をご利用中の場合、同じ理由からすべての FlexNet インベントリ ツールおよびインストール済みのインベントリ ビーコンを最新版にアップデートすることを強くお勧めします。

現在のリリースである FlexNet Manager Suite 2018 R2 のインストールおよびアップグレード手順をオンプレミス カスタマー向けに説明する 4 つのドキュメントがあります。

- ・ Installing FlexNet Manager Suite 2018 R2 On-Premises (英語のみ)Flexera Analytics 2018 R2 をインストールするオプションを含みます。
- ・ Installing FlexNet Manager Suite 2018 R2 for a Managed Service (英語のみ)
- ・ Upgrading FlexNet Manager Suite from 2014 Rx to 2018 R2 On-Premises (英語のみ)FlexNet Manager Suite バージョン 2014 以降からのアップグレード用です。
- ・ Migrating to FlexNet Manager Suite 2018 R2 On-Premises (英語のみ)FlexNet Manager Platform 9.2 から FlexNet Manager Suite 2018 R2 On-Premises への移行について説明されています。FlexNet Manager Platform の以前のバージョンは、この移行を開始する前に 9.2 バージョンにアップグレードする必要があります。

これらは、製品 & ライセンス センター および [Customer Community Documentation](#) サイト (英語のみ) からアクセス可能な Installation Documentation for FlexNet Manager Suite 2018 R2 アーカイブに含まれています。これらは、オンプレミス

実装のオンライン ヘルプのタイトルページからも取得できます。

7

ドキュメント

FlexNet Manager Suite 2018 R2 のドキュメントは、オンライン ヘルプとして提供されています。Web ユーザー インターフェイスから、疑問符記号のアイコンをクリックしてヘルプを起動してください。追加ドキュメントは、オンライン ヘルプのタイトルページから取得することができます。オンライン ヘルプおよび追加ドキュメントは、その内容が必要に応じてカスタマイズされているため、すべてのドキュメントはオンプレミス バージョンとクラウド バージョンで異なります。オンプレミス カスタマーは、[Documentation Center](#) から追加ドキュメント ファイルにアクセスが可能です。

ドキュメントの要素	言語
オンライン ヘルプ	英語
	ドイツ語
	フランス語 – FlexNet Manager for SAP Applications の機能について
追加 PDF ドキュメント	英語
	ドイツ語 – FlexNet Manager for SAP Applications ユーザー ガイドおよびインストール ガイド

インストールおよびアップグレードに関する詳細は、このドキュメントの「[インストールおよびアップグレードについてのアドバイス](#)」セクションを参照してください。

8

その他の情報

項目	説明
FlexeraWeb サイト	Flexera についての情報 http://www.flexera.com
Flexera システム ステータス ダッシュボード	Flexera のクラウド製品についての現在のリリース状況を表示します。 https://status.flexera.com
サポート	サポート Web サイト (Knowledge Base を含む) (英語のみ) https://flexeracommunity.force.com/customer
製品ダウンロード	Flexera製品 & ライセンス センター https://flexera.flexnetoperations.com/flexnet/operationsportal/startPage.do
製品についてのお知らせ用の電子メール サインアップ	ホットフィックスを含む FlexNet Manager Suite のソフトウェア アップデートに関する通知 http://learn.flexerasoftware.com/SLO-FMS-Software-Content-Library-Updates